

編集後記

◆ 6月を迎えました。世間では先月からメキシコから広まった新型インフルエンザが話題となっておりますが、うがい・手洗いの励行、マスクの着用等、日頃から健康・安全には注意したいものです。さて今月号は、昨年秋田で開催された「地質情報展2008あきた」の特集記事13編を中心に、8編の一般記事をあわせ、盛りだくさんの構成となっています。

◆ 地質情報展は、12年前に九州福岡で初めて開催されたのを皮切りに、毎年日本各地で開催されてきました。地質調査総合センターと日本地質学会等の主催で、地質を一般の方々に普及・広報させるために、時期と地域を学会の年会にほぼあわせて開催されています。地質の成果普及に関しては、常設の博物館の展示だけでは不十分であり、イベント的に開催することで、参加者も新鮮な感覚で多くのことが吸収できると思われます。また、地元の参加者にとっても関心の高い地元の情報を直接得ることが出来ますし、自分でいろいろな体験を実際に行ってみることで、身近に地質を感じ取ることが出来るでしょう。本誌の特集では、昨年開催された展示等の状況をそれぞれの担当者に報告していただいています。

◆ 吉田氏の総括に続いて、地元の秋田の岩石・地質（工藤氏ほか）、海洋調査法や資源（辻野氏ほか）、火山活動（及川氏ほか）、石油・天然ガス資源（金子氏）、砂展示・砂観察の話題（有田氏ほか）等の展示報告が続きます。更に、化石レプリカ作り（中島氏ほか）、水路模型による堆積実験（澤田氏ほか）、石割（工藤氏ほか）、鳴り砂（兼子氏）、地学クイズ（坂野氏）、身近な材料を用いたキッチン火山実験（栗山氏）、岩石破壊実験（佐藤氏ほか）など、体験型イベントの様子や出来事等を報告していただきました。

◆ 一般記事でも、秋田に関連した話題が続きます。秋の情報展に先立って開催された夏のイベントの開催報告を、今後の課題と共に吉田氏ほかが報告しています。また、子供達に野外体験学習の場を広めようとする「秋田まるごと地球博物館ネットワーク」について、佐々木詔雄氏が紹介しています。地域の持つ各種資源を有効に活用しようとする教育活動は、他の地域でも良い手本になりそうです。また、産業遺産の認定を受けた豊川油田について、佐々木榮一氏ほかは「石油の里」ジオサイトを目指してその保存と活用を行う活動を紹介しています。両者の活動で秋田における更なる成果が期待されます。

◆ 昨年5月12日に、中国四川で大地震が発生し、多くの幼い命が奪われました。あれから1年を迎えましたが、その時に現地の調査を行った雷氏の報告です。どこの被災地でも同じですが、災害からの復旧がスムーズに進むことを祈るのみです。

◆ タンタル資源はレアメタルの一つであり、近代産業において貴重な資源です。そうした状況を石原氏はグリーンブッシュ鉱山の概要と共に解説して下さいました。

◆ 地質標本館では一時的に職場を体験させる中学生の体験学習や、一般公開にあわせて標本館展示をする「移動地質標本館」等の活動もしています。吉田氏ほかは、昨年開催された職場体験学習、及び産総研東北センターでの「移動地質標本館」の模様を報告して下さいました。

◆ 最後は、藤縄氏による多視点的な新刊紹介です。本誌におきまして、興味と活力が沸き起こるような誌面とするために、今後とも皆様からのご投稿をお待ちしております。
(金井 豊)

地質ニュース編集委員会

委員長：金井 豊

事務局委員：宮内 渉

委員：重松紀生・杉原光彦・中嶋 健・森尻理恵・七山 太・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース	第658号	2009年	6月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2009年6月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		



表紙右下のロゴについて：地質調査総合センターは、国際惑星地球年（IYPE）に賛同し、活動を支援しています。

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

©2009 Geological Survey of Japan